

フランス 1930年代の現象学研究の一面(続)

——『哲学探究』年報について——

箱石 匡行*

(1989年9月19日受理)

『哲学探究 (RECHERCHES PHILOSOPHIQUES)』年報が、フランス 1930年代の現象学研究に対して行った貢献については、筆者はすでに前稿(『岩手大学教育学部研究年報』第48巻第1号、1989年10月、所収の拙論)において述べてあるので、改めて論ずるべきことはない。ただ、ここで付言しておきたいのは、第六巻には、『哲学探究』年報の賛助委員会(COMITÉ DE PATRONAGE)と編集委員会(COMITÉ DE RÉDACTION)の委員名が示されている、ということである。賛助委員会の委員としては、C. ブーグレ(C. BOUGLÉ), É. ブレイエ(É. BRÉHIER), L. ブランシュヴィク(L. BRUNSCHVICG), H. ドラクロワ(H. DELACROIX), G. デュマ(G. DUMAS), É. ジルソン(É. GILSON), ピエール・ジャネ(PIERRE JANET), アンドレ・ラランド(ANDRÉ LALANDE), エドゥアール・ル・ロア(ÉDOUARD LE ROY), L. レヴィ=ブリュール(L. LÉVY-BRUHL), A. レイ(A. REY), A. リヴォー(A. RIVAUD), L. ロバン(L. ROBIN)の名が、そして編集委員会の委員としては、G. バシュラル(G. BACHELARD), A. コイレ(A. KOYRÉ), H.-CH. プシュ(H.-CH. PEUCH), M. スーリオ(M. SOURIAU)の名が明記されているのである。

この続稿では、『哲学探究』年報(第一巻から第六巻まで)の内容総目次の試訳を示すことにする。この内容総目次を見ることによって、人は、この時期におけるフランスの哲学研究のおおよその状況と傾向とを知ることが出来ることであろう。

『哲学探究 (RECHERCHES PHILOSOPHIQUES)』

(全六巻)

内容総目次

RECHERCHES PHILOSOPHIQUES publiées par A. KOYRÉ H.-CH. PUECH A. SPAIER

I 1931-1932

II 1932-1933

III 1933-1934

RECHERCHES PHILOSOPHIQUE fondées par A. KOYRÉ H.-CH. PUECH A. SPAIER

* 岩手大学教育学部

IV 1934-1935

V 1935-1936

VI 1936-1937

BOIVIN & C^e, ÉDITEUR, RUE PARATINE, PARIS, VI^e

第一卷 (1931-1932)

目次

緒言

I

形而上学の現今の諸動向

- A. J. ヴァール 具体的なものの方へ 1
 A. スパイエ 思考と延長 21
 G. バシュラール 本体と微小体物理学 55
 J. バルジ 神秘的言語についての諸探究への序論 66
 M. ハイデガー 根拠の本質について 83
 B. 非理性的なものについてのシムポジウム
 R. ミュラー=フライエンフェルス 理性主義と非理性主義 125
 R. ジョアン E. メイエルソン氏における理性と非理性的なもの 138
 A. スパイエ 非理性的という概念 166

II

哲学的諸方法についてのシムポジウム

- H.-J. ジョルダン 生物学における弁証法的ないし総合的方法との諸関係における、
 世界の自然主義的概念 179
 H.-J. ポス 統辞論の統合性 206
 P. マッソン=ウルセル 形而上学的一方法：倒置 229
 J. レール オクスフォードにおける今日のモラリストたちと直観主義の再生 235
 E. ルルー 倫理学における新しい一方法の理念 253
 J. バイエ 最古の古典的歴史の方法論についての諸反省 262

III

外国における哲学探究の方向性

- W. デュビスラウ ドイツにおける諸数学の哲学についての諸探究 299
 R. ミュラー=フライエンフェルス 今日のドイツ心理学の主要な諸動向 312
 L. ヴェルレーヌ ベルギーにおける動物心理学 322
 J.-A. ビエレンス・デ・ハーン 1928年から1930年までのオランダにおける動物心理学 334

I. ブルカール ルーマニアの哲学	345
A. レイモン スイスのフランス語地域における今日の哲学的諸関心事	353

IV

書評・批判的研究

一般哲学

E. ル・ロア『直観的哲学』第一巻「言述の彼方」、第二巻「発見と検証」 (A. スパイエ)	363
E. カシラー『象徴的諸形式の哲学』第一巻「言語」、第二巻「神秘的思考」、 第三巻「認識の現象学」(A. スパイエ)	364
E. メイエルソン『思考の進展』(A. スパイエ)	365
G. バシュラール『相対性の帰納的価値』(A. スパイエ)	368
R. リュイエ『構造の一哲学の素描』(A. スパイエ)	373
ラレイ卿『科学へのその関係におけるバルフォア卿』(A. スパイエ)	376
論理学・認識論	
H. ライヘンバッハ『原子と宇宙——現代の物理学的世界像』(G. バシュラール)	377
A. ファヴル『メートル法の諸起源』(G. バシュラール)	378
G.-H. リュケ『論理学・道徳学・形而上学』(R. ブランシェ)	379
道徳学・宗教哲学	
E. ル・ロア『神の問題』(M. スーリオ)	381
K. プラハト『象徴と偶像——宗教的経験の重要性における象徴形式の意味について』 (M. スーリオ)	383
A. ボウル『キリスト教的統一——離反と和解』(H. グイエ)	385
H.-E. アイゼンフート『哲学的問題としての非理性的なものの概念』(E. レヴィナス)	385
心理学・教育学	
G. デュマ『心理学新論』第一巻「予備的諸概念、序論、方法論」(A. スパイエ)	386
H. ドラクローア『言語と思考』(A. スパイエ)	387
E. セリエール『マルセル・ブルースト』(A. スパイエ)	388
F. クリュエーガー『心理学における構造概念』(A. スパイエ)	389
F.A. ケイヴナー『ジェームズとジョン・スチュアート・ミルの教育論』(A. スパイエ)	390
P. ギョーム『心理学』(R. ブランシェ)	391
ヤードレイ『ニュートンの大学の理念』(J. アンセルム)	392
社会学	
L. レヴィ=ブリュール『原始心性における超自然的なものと自然』(M. ボナファー)	394
L. スチュルゾ『国際的共同体と戦争の権利』(M. ボナファー)	403
L. ホヤク『機械論はどこへ行くのか』(M. ボナファー)	403
B. グレートゥイゼン『民主主義の弁証法』(B. パラン)	403
哲学史	
一般的紹介	
『古代及び教父の哲学』(H.-Ch. プシュ)	406

『中世哲学』(A. コイレ及び H. グイエ)	466
ジャンツ『J.-J. ルソーの思想——新解釈の試み』(E. カルカソヌ)	501
V. ジャンケレヴィチ『ベルクソン』(H. グイエ)	509
E. セナール『チャンドーグヤ=ウパニシャッド』(H. カルカソヌ)	511
C. フォルミン『仏陀以前のインドの宗教思想』(E. カルカソヌ)	513
L. ドウ・ラ・ヴァレ=プサン『仏教の教義と哲学』(E. カルカソヌ)	515
R. グルーセ『インド諸哲学——諸体系』(P. マッソン=ウルセル)	518

第二卷(1932-1933)

目次

凡例

I

諸超越性についてのシムポジウム

M. ジャネ 数学及び物理学における目的性	1
H.J. ジョルダン 生命的非決定論と因果的諸構造の力動論	18
L. ヴェルレーヌ 本能とは何ものでもない	48
A. スパイエ 単純な諸運動と生物学的諸超越性	62
M. スーリオ 物質と具体的なもの	81
O. ベッカー 生の超越性と実存の出現	112
R. リュイエ 死と絶対的実存	131
H. コンラート=マルティウス 実存、実体性及び靈魂	148

II

言語哲学・心理学・教育学

P. マッソン=ウルセル 意味論と形而上学	183
H.J. ポス 諸同義語の一般理論への貢献	190
J. ブールジャド 心理的諸機構と教育	202
E. ミンコウスキー 精神病理学における時間の問題	231

III

論理学・科学哲学

Cl. シュヴァレイ 厳密性と公理論的方法	257
H. リップス 判断の諸様態	262

IV

資料・批判的研究

ジャン・バリュジ ベルクソンと神秘学との交点	301
------------------------------	-----

ガブリエル・マルセル カール・ヤスパースにおける基本状況と限界状況	317
J. ヴァール ハイデガーとキルケゴール	349
H. コルバン 哲学的人間学のために——スワルディ・ダレブの未公開ペルシャ語論考	371

V

外国の哲学

J. レール 大ブリテンにおける最近の哲学的刊行物	425
L. ヴェルレーヌ ベルギーにおける動物心理学	437
Th. ゴシキ ポーランド哲学の今日の諸動向	448
I. ブルカール ルーマニアの哲学	454

VI

書評・批判的研究

一般哲学

ルネ・ポアリエ『空間及び時間概念の幾つかの性格についての試論』(G. バシュラール)	461
ルネ・ポアリエ『帰納の蓋然性についての考察』(G. バシュラール)	466
ジャン・ヴァール『具体的なものの方へ——哲学史諸研究』(A. スパイエ)	468
ジャック・シュヴァリエ『理念と現実的なもの』(A. スパイエ)	469

現象学

ゲオルク・ミッシュ『生の哲学と現象学』(A. コジェヴニコフ)	470
ユリウス・クラフト『フッセルからハイデガーへ』(A. コジェヴニコフ)	475
ルドルフ・ツォッヘル『フッセルの現象学とシュッペの論理学』(A. コジェヴニコフ)	477
ローマン・インガルデン『文学作品』(A. コジェヴニコフ)	480

論理学・認識論

アルノルト・レイモン『論理学の諸原理と今日の批判』(A. スパイエ)	486
G. バシュラール『近代化学の厳密な多元論』(A. スパイエ)	488
G. バシュラール『原子論的諸直観』(A. スパイエ)	491

宗教哲学

ベルナルト・ローゼンモラー『宗教哲学』(M. ドゥ・ガンディヤック)	493
ラベルトニエール『選集』(M. ドゥ・ガンディヤック)	495

社会学

フランソワ・シミアン『賃金・社会進化・金——賃金についての実験的理論の試論』 (M. ボナファー)	496
『法律及び法社会学雑誌』(M. ボナファー)	507
アンリ・セルーヤ『戦争と平和の哲学的問題』(M. ボナファー)	508

美学

リュク・ベノワ『天使たちの料理』(A. ダンデュー)	508
ジャン・バイエ『建築術と詩学』(A. スパイエ)	509

哲学史

一般的紹介

『古代及び教父の哲学』(M.Ch. プシュ)	510
『中世哲学』(A. コイレ)	563
『近代フランス哲学』(H. グイエ)	598
S. ルビエンスキー『ホッブスの倫理=政治的体系の基礎』(L. シュトラウス)	609
ジャン・トマ『ディドロの人間主義』(M. ボナファー)	622
オーギュスト・コント『C. ドゥ・ブリニエール宛未公開書簡』(R. デュカセ)	623

第三卷 (1933-1934)

目次

Ch. ラロ アルベール・スパイエ (1883-1934)	VII
E. メイエルソン 同一なものの概念	1

I

時間、存在及び精神についてのシムボジウム

A. リヴォー 持続についての考察	19
C.A. ストロング 存在と生成	34
G. マルセル 所有の現象学素描	58
F.H. ハレット 主観性・媒体・現象・現実	77
M. スーリオ 物質・文字・言葉	89
P. ラシエズ=レイ 構成的な精神活動についての反省	125
E. スーリオ 精神的凝縮	148
J. ヴァール キルケゴールの幾つかのカテゴリーについて ——「実存」「孤立せる個人」「主観的思考」	171

II

先決すべき諸価値と形而上学

P. マッソン=ウルセル ゲルマン主義による、及びインドによる無制限なもの	203
H. グイエ キリスト教哲学に関する哲学についての余談	211
A. スパイエ ニーチェのデーモンと性格	237
H. コルバン 弁証法神学と歴史	250

III

生物学・心理学・言語哲学

L. ヴェルレーヌ 鳥の本能と知性	285
-------------------------	-----

G. バシュラール 移り気と細密画としての世界	306
H.-J. ポス 小辞——その論理的・情感的諸機能	321
E. ミンコウスキー 内面の戦い	334

IV

論理学・認識論

E. デュプレール 順序の蓋然性	347
------------------	-----

V

哲学史

J. レール ヒュームに関する最近の諸見解	363
E. カルカソンス 現代の批判以前のバガヴァド・ギーター	382

VI

外国の哲学

T. ゴスィッキ ポーランドにおける心理学的諸探究の今日の展開	413
---------------------------------	-----

VII

書評・一般的紹介

一般哲学

A. エッケンシュピラー 『持続と瞬間——存在の類比的性格についての試論』 (G. バシュラール)	423
S. カラメリア 『共通感覚——理論と実践』(M. スーリオ)	425
『その形成者たちによるドイツの体系的哲学』第一巻 (A. スパイエ)	426
H. アドルフ 『人格主義の哲学』(A. スパイエ)	427
現象学	
W. イルレマン 『フッサルの現象学以前の哲学』(A. コジェヴニコフ)	428
Fr. ヴァイダウアー 『フッサルの超越論的現象学の批判』(A. コジェヴニコフ)	429
『現象学—トマス学会研究誌』(A. コジェヴニコフ)	429
G. ミッシュ 『生の哲学と現象学』(A. スパイエ)	431
J. ヴァッハ 『ランケから実証主義にいたる歴史家における理解』(H. コルバン)	432
Fr. プレンターノ 『カテゴリー論』(H. コルバン)	433
W. デイルタイ 『ドイツの詩と音楽について』(H. コルバン)	434
『神学及び教会のための雑誌』第二号「神学的人間学——特別号」(H. コルバン)	434
R. ブルトマン 『信仰と理解——論説集』(H. コルバン)	435
心理学	
G. デュマ 『心理学新論』第二巻「心的生活の基礎づけ」 第三巻「知覚運動連合」(A. スパイエ)	440
A. クロンフェルト 『性格学教科書』(A. スパイエ)	445
M. コムブ 『夢と人格性』(A. スパイエ)	447

『性格と人格性——精神診断学及び関連研究のための国際季刊誌』(A. スパイエ) ……	449
M. ドレ『精神分析の歴史的基礎』(A. スパイエ) ……	450
M. シェーレル『ゲシュタルト理論——その方法及びその心理学的対象』(A. スパイエ) ……	451
F. ミシヨ『エクリチュールによって人間について知らなければならぬこと』 (A. スパイエ) ……	452
A. ブフェンダー『人間の霊魂』(A. スパイエ) ……	453
R. フォルグ『幻覚の神経生物学』(A. スパイエ) ……	455
J. ラカン『人格性との関連におけるパラノイア精神病について』(H. エー) ……	457
M. プラディヌ『感覚の哲学』第一巻「感覚の問題」 第二巻「基本的感覚性」(A. ギュルヴィチ) ……	460
認識論	
A. マイモン『力の概念の批判』(G. バシュラール) ……	462
M. ボル『偶然, エネルギー, 等々とは何か』(A. スパイエ) ……	463
A. エディントン『膨張する宇宙』(A. コジェヴニコフ) ……	464
J. ジーンズ『科学の新しい背景』(A. コジェヴニコフ) ……	464
H. ウェイル『開かれた世界——科学の形而上学的諸含意についての三講義』 (A. コジェヴニコフ) ……	464
道徳	
H. ライナー『人倫的結合の基礎と人倫的善』(A. スパイエ) ……	466
R. ジュノー『フレデリック・ロー——知的伝記の試み』(A. スパイエ) ……	468
P. アルシャムボー『精神的なものの根拠』(M. スーリオ) ……	470
E. デュブレール『道徳論』(M. スーリオ) ……	471
言語学	
1931年から1933年に至るあいだに刊行された言語哲学・言語心理学に関する 諸研究の文献一覧 (H. ポス) ……	473
哲学史	
古代及び教父の哲学 (H.-Ch. プシュ) ……	487
中世哲学 (H. コルバン, H.-Ch. プシュ, P. ヴィニョー) ……	525
近代哲学 (H. グイエ, M. スーリオ, A. スパイエ, J. ヴァール, H.-Ch. プシュ) ……	528
雑	
J. ユビィ『最後の晩餐以後のイエスの談話』(H.-Ch. プシュ) ……	541
『禁欲的・神秘的霊性についての事典』(H.-Ch. プシュ) ……	541

第四巻 (1934-1935)

目次

A. スパイエ 個人主義・自己贈与・その本能的諸根拠の複合 ……	1
----------------------------------	---

I. 実在の存在について

G. バシュラール 推論的概念論について	21
R. リュイエ 実在論に対する幾つかの新しい議論について	30
M. ベルナベイ 自我と非我 (実在論の一哲学の試み)	51
J. ヴァール 存在の概念についてのノート	62

II. 実存の本性について

G. スターン アー・ポステリオーリーなものについての一解釈	65
K. ナドラー 生命・実存・精神の弁証法	81
E. ヴェイユ 人が歴史に抱く関心について	105

III. 人間の実存について

A. マルク 時間と人格	127
G. マルセル 行為と人格の概念に関する考察	150
M. スーリオ 喜びの神秘	165

IV. 反省の諸態度

R. ドォマル 哲学的言語の諸限界と伝統的諸知識	209
K. レーヴィット ヘーゲルによる古典哲学の完成と マルクス及びキルケゴールにおけるその解体	232
P. クロソウスキー D.A.F. ドゥ・サドの哲学における悪と他者の否定	268

V. プシューケー・ロゴス

E. ミンコウスキー 現象学的諸粗描	295
P. マッソンニウルセル 力動的心理学へむけて——時間の展望	314
R. カイヨワ 観念の自由連合の一例についての分析と注釈	321
H.-J. ポス 思考の表現における言葉とその役割	337
G. ダルモワ 蓋然性の理論の近代的形態	348

VI. 批判的諸研究

H. ライヘンバッハ 蓋然性の論理的基礎づけについて	361
B. グレートウイゼン 理念と思考 (ディルタイの『日記』についての考察)	371
A. マルク 自我の変身 (ルネ・ル・センヌ氏の二つの作品の余白)	377
B. マルコット 狭き人生 (J. ヴァールによって公刊された断片)	385

VII. 書評・一般的紹介

一般哲学

L. ブランシュヴィク『知性の諸時期』(R. リュイエ)	391
L. ラヴェル『全体的現前』(E. レヴィナス)	392
M.-D. ロランニゴスラン『認識批判試論』第一巻「序論及び第一部」(A. メイデュ)	395

Th. リット『哲学入門』(A. コイレ)	396
A.-N. ホワイトヘッド『自然と生命』(A. コイレ)	398
現象学	
G. クレンツリン『マックス・シェーラーの現象学的大綱』(A. コジェヴニコフ)	398
A. シュテルンベルガー『了解された死——マルティン・ハイデガーの実存哲学の一探究』 (A. コジェヴニコフ)	400
W. ゼゼマン『論理法則と存在』(A. コジェヴニコフ)	402
M. シェーラー『遺稿集 I——倫理学と認識論のために』(J. ヴァール)	403
H. ライナー『その形而上学的内容の問題に顧慮して描かれた信仰の現象』(E. ヴェイユ)	406
N. ハルトマン『精神的存在の問題』(A. コイレ)	407
H. ディーム『神学的視点における批判的観念論——ハインリッヒ・バルトとの対決』 (H. コルバン)	410
A. メッツガー『現象学と形而上学——相对主義の問題とその克服』(H. コルバン)	411
P.-L. ランツベルク『哲学的人間学入門』(H. コルバン)	414
心理学・言語学	
M. プラディヌ『感覚の哲学』第二巻「基本的感受性——防衛の意味」 (A. ギュルヴィチ)	416
H. ドラクロワ『心的生活の大きな諸形態』(M. スーリオ)	418
H. ドラクロワ『幼児と言語』(M. スーリオ)	420
L. ラントグレーベ『命名機能と言意——マルティの言語哲学についての一研究』 (E. ヴェイユ)	420
G. ティボン『性格学』(E. ヴェイユ)	421
美 学	
K. オデブレヒト『現代の美学』(E. ヴェイユ)	422
論理学・認識論	
L. フィッシャー『哲学及び数学の基礎』(G. バシュラール)	422
ヒルベルト, ベルナイス『数学の基礎』第一巻 (J. カヴァイエス)	423
H. ディングラー『論理の哲学と算術』(コジェヴニコフ)	430
L.-S. ステッピング『論理実証主義と分析』(A. コイレ)	434
L. シルバースタイン『因果律——自然法則か自然主義の格率か』(A. コイレ)	435
P. ランジュヴァン『微粒子及び原子の概念』(A. コイレ)	436
国際合成センター『科学と法則』(A. コイレ)	438
G. バシュラール『新しい科学的精神』(M. スーリオ)	440
社会諸科学	
E. グリュントヴァルト『知識社会学の問題——知識社会学理論の批判的叙述の試論』 (R. アロン)	442
F. シュミット『古代から現代までの精神諸科学の理論』(R. アロン)	442
H. ランツフト『社会学の批判——社会学の根本問題としての自由と平等』 (R. アロン)	443
H. フライヤー『現実性の科学としての社会学』(R. アロン)	443

A. メットラー 『マックス・ヴェーバーと現代における哲学的問題性』 (E. ヴェイユ)	446
哲学史	
東洋哲学 (A. コジェヴニコフ)	446
古代及び教父の哲学 (H.-Ch. プシュ)	448
中世哲学 (A. コイレ, P. ヴィニョ, P. クラウス)	476
近代哲学 (H. グイエ, A. コイレ, J. ヴァール, G. バシュラール, E. ヴェイユ, Ch. プシュ, R. アロン, P. デュカセ)	499
科学史	
科学史 (A. コイレ, G. バシュラール)	517
雑	
雑報と注釈 (P. ヴィニョ, Ch. プシュ, H. コルバン, A. コイレ)	522

第五卷 (1935-1936)

目次

時間についての省察

I. — 時間の問題

R. ポアリエ 精神の時間と物質の時間	1
N. ケルソンスキー 時間の概念	41
R. リュイユ 時間の意味	52

II. — 時間と生

E. ミンコウスキー 生きられる時間の問題	65
P. クロソウスキー 時間と攻撃性	100
E. ストロス 生きられる運動	112

III. — 言葉と時間

G. グレートゥイゼン 時間の幾つかの相について	139
E. ピンヨン 時間と特有語法	196

IV. — 神話と歴史

G. デュメジル 時間と神話	235
R. カイヨワ 神話と人間	252
H. レヴィ=ブリュール 歴史的事実というもの	264

存在について, 知識について

A. レイモン 真理・明証性・確実性	275
H.J. ジョルダン 精神と物質	299
X. ジョビリ 神の問題をめぐって	321

実存について，存在について

J. ノゲ 現前と不在	347
G. バタイユ 謎宮	364
E. レヴィナス 逃走について	373
K. レーヴィット ヘーゲルの宥和	393

書評・一般的紹介

一般哲学

H. コルバン, H. グイエ, A. マルク, P. メナル, G. ステルンによる

R. ジョリヴェ『トマス主義と認識批判』	405
J. マリタン『統一するために弁別すること，或いは知識の諸段階』	405
R. ガリグーニラグランジュ『神秘の意味と知的な明晰＝曖昧なもの』	406
M.T.-L. ビネド『教条的神学における類比の役割』	406
A. マルク『聖トマスにおける及び後期スコラ哲学における，存在の理念』	406
P. デコック『知りうる神について』	408
D. パロディ『哲学を求めて』	409
J. ポール『悲劇的構造の哲学』	411
E. ブロッホ『現代の遺産』	411
A. ティルゲル『歴史主義の批判』	412
E. ウティッツ『現代における哲学の使命』	413
W. シングニッツ『人間と概念』	414

現象学

A. コジェヴニコフ, A. コイレによる

A. デルブ『悲劇的実存——マルティン・ハイデガーの哲学のために』	415
F. ヴァイダウアー『客観性・無仮定的学問・学問的真理』	419
G. ファン・デル・レーウ『宗教の現象学』	420
N. ハルトマン『存在論の基礎づけのために』	422

心理学・美学

J. クライン, J.-M. ラカン, G. シュテルンによる

E. ミンコフスキー『生きられる時間——現象学的・心理学的諸研究』	424
E. シュトラウス『感覚の意味について——心理学の基礎づけのための一寄与』	431
L. リュシュ『芸術的創造についての試論——力動的美学への寄与』	433
P. セルヴィアン『美学の諸原理——芸術の諸問題と科学の言語』	435

言語学

H.-J. ポスによる

言語哲学の一般的紹介 (1933-1935)	436
------------------------	-----

論理学・認識論

G. バシュラール, A. コジェヴニコフ, A. コイレによる

K. ポッパー『探究の論理——近代自然科学の認識論のために』	446
H. ライヘンバッハ『確率論』	446

H. ハーン『論理学, 数学, 及び実在の認識』	448
J. ジャン『科学の新しい哲学的基礎』	450
H. メッツガー『ラヴォアジエにおける物質の哲学』	452
F. クルーゲ『数学と自然科学についてのアロイス・ミュラーの哲学』	453
J. ペルセネール『数学思想の進歩の粗描』	453
A. エディントン『科学への新しい小道』	455
W. ハイゼンベルク『自然科学の基礎における諸変化』	457
M. ルカ『今日における数学者たちの, 諸原点の諸誤謬』	458
E. ブラッハフォーク『ニコラウス・コペルニクスとアリストタルコス』	459
M. カスパール『ヨハネス・ケプラー——科学的・哲学的位置づけ』	460

社会諸科学

R. アロン, H. ポルノウ, H.-C. プシュによる

H. ゴムベルツ『意味と意味形成態——理解と解明』	460
H. プフィスター『理念型への展開』	463
K. マンハイム『変革の時期における人間と社会』	465
R. バスチド『宗教社会学の基礎』	466
C. ブーグレ『フランス社会学の概括』	468

哲学史

古代哲学 (H.-C. プシュ, E. ヴェイユ)	469
東洋哲学 (A. コジェヴニコフ)	488
キリスト教と教父哲学 (H.-C. プシュ)	489
ユダヤ=アラビア哲学 (J. ゴルダン, P. クラウス, S. ピヌ)	497
中世哲学 (A. コイレ)	507
近代哲学 (H. コルバン, H. グイエ, A. コイレ, P.-L. ランツバーグ, H.-C. プシュ, E. ヴェイユ)	523

雑報・小註

H.-C. プシュ, A. コイレによる

L. ドゥ・グランメゾン『靈的著作集』第三卷	540
E. ベイラーベ『性格と人格性』	541
J. マリタン『自然の哲学——その境界と対象についての批判的試論』	541
A. ガルデイユ『キリスト教徒の真の生活』	541
W. ヴィンデルバント, H. ハイムゼート『哲学史教本』	542
『禁欲的・神秘的靈性の事典』第四分冊	543

第六卷 (1936-1937)

目次

I. 実存と状況

- G. マルセル 状況内存在についての現象学的概要 1
 G. ステルン 自由の病理学——非-同一化についての試論 22

II. 行為と行動

- A. ダンデュ, ドニ・ドゥ・ルージュモン 出発点としての行為 55
 R. アロン イデオロギー 65

III. 人間学

- J.-P. サルトル 自我の超越性——現象学的一記述の粗描 85
 H. ポルノウ 身体・霊魂・精神 (構造の諸問題) 125
 H. プレスナー 感性と理性——音楽の哲学への貢献 144

IV. 理論

- A. ラウトマン 公理論と分割の方法 191
 L. レヴィ 無限集合の理論の背景 204

V. 哲学的諸立場

- M. シャスタン 実存の意味作用 221
 J. グルニエ 統一の確実性と諸信仰の問題 248
 S. ザンダン 意味について——事物の観念論的否定の射程についての探究 254
 P. ピション 認識の上昇的進行について 285
 P.-L. ランツバーク マックス・シェーラーの哲学的営為 299

VI. 彙報

- E. フォルティ 心理学的方法と情動の問題 313
 H. リップス プラグマティズムと実存哲学 333
 J. ヴァール ヤスパースの『ニーチェ』 346
 P. ヴィニョ モーリス・ブロンデルの哲学の幾つかの傾向について 363
 C. シュヴレイ 行動の弁証法 (アルノ・ダンデュの思想の余白に) 373

書評・一般的紹介

一般哲学

E. レヴィナス, H.-C. プシュ, M. スーリオ, E. ヴェイユによる

- 『哲学の現今の様相——アンケートに見られる動向と結果』 385
 『宗教と哲学』 386

J.S. ホールデイン『一生物学者の哲学』	387
O. フィリップ『絶対的実在論』	388
G. ベネゼ『超越論的なものの歩み』	388
G. ベネゼ『価値』	390
G. クレンツリン『無限なる人間の哲学』	391

現象学

A. コジェーヴ, J. ヴァールによる

J. エルシュ『哲学の幻想』	392
C. アストラダ『現象学的観念論と実存的形而上学』	394
S. ルバスコ『論理的生成作用について——感性性について』	394
G. グンター, H. シェルスキー『キリスト教的形而上学と近代的意識の運命』	395
J. ヘッシング『精神の自覚』	395
A. フィッシャー『マルティン・ハイデガーの実存哲学』	396

心理学・美学

A. ギュルヴィチ, E. レヴィナス, H.-C. プシュ, M. スーリオ, E. ヴェイユによる

H. ドラクロワ『デュマの心理学新論』第五卷, 第三・第四分冊	397
J.-P. サルトル『想像力』	398
J.-W. ダン『時間の実験』	399
P. ケルシー『幻覚』	400
E. ピション『幼児と成人の心的発達』	401
R. マレ『痴呆』	402
M. デュヴァル『詩と超越性の原理』	402
O. ルマリエ『人格についての試論』	403
P. ギョーム『習慣の形成』	404
A. ヴェンツル『天才の理論』	405
M.T.-L. ベニド『宗教意識』	406
M. ヴァール『絵画における運動』	407
J. デュフロ『心的エネルギー論粗描』	407
R. デュレ『視覚イマージュの諸相』	407
N. フェルトマン『現代フランス美学』	408
R. ヘラー『美の本質』	409

論理学・認識論

G. バッシュラールによる

J. ドゥ・ボワッスーディ『二つの実在——空間ならびに, 持続の統一における物質』	410
J. ドゥ・ラ・ハルプ『秩序と偶然について——A. クルノの批判的実在論』	411
J.-J. ヴァロリ『物理学小話』	412
W.-M. コズロフスキー『国際哲学会議に提出された諸報告』	413

道徳学・社会学

E. レヴィナス, M. スーリオ, E. ヴェイユによる

A. キュヴィリエ『社会学入門』	413
------------------	-----

L.v. ヴィーゼ『社会的・精神的・文化的』	415
Ch. ルリダン『道徳的自由の理念』	415
R. ミュンシュ『現代の不安定性における個人』	415
哲学史	
古代哲学 (H.-Ch. プシュ)	416
キリスト教と教父哲学 (H.-Ch. プシュ)	434
近代哲学 (H. コルバン, E. ルルー, H.-Ch. プシュ, J. ヴァール, E. ヴェイユ)	441
小註・雑録	
H.-Ch. プシュ, J. ヴァールによる	
W. リヴィエ『生の問題』	453
E. デニソフ『トマス主義を前にしたロシア教会』	453
E. グリーゼバッハ『自由と規律』	453
A. フェステュジエール『プラトーンによる観想と観想的な生活』	454
『禁欲的・神秘的靈性の事典』第六分冊	455
編集部 <small>の註</small>	456

SOMMAIRE

Un Aspect des Recherches Phénoménologiques
des Années 1930 en France (suite)
— Sur le Recueil Annuel 《Recherches Philosophiques》 —

Masayuki HAKOISHI